

アンクルモールV工法 施工事例（φ1,500mm立坑発進）①

施工場所：岡山県〇市

呼び径：200

立坑：発進立坑φ1,500mm鋼製ケーシング
到達立坑1号現場打ちマンホール

土被り：0.76~1.25m

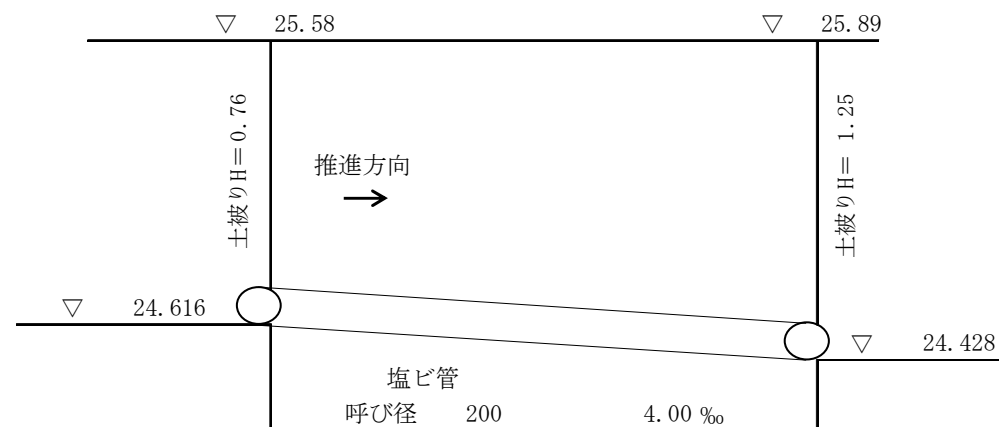
土質：普通土

推進延長：L=45.8m

本工事の設計工法は、圧入二工程方式でありましたが、部分的に硬質地盤に当る可能性があることから、施工の安全性を考慮し泥水一工程方式にて承認を得て施工

施工精度は、上下・3~3mm、左右・4~4mm、最大推進力49kNで施工完了

測点番号	2436No.1+30.0	2437-1No.1
発到区分	片発進立坑	到達マンホール
立坑種類	鋼製ケーシング	1号現場打ちマンホール
立坑サイズ	φ1,500mm	φ900mm



路線番号	2436		
土質	普通土		
推進方向	→		
管種	塩ビ管		
管径	呼び径 200		
勾配	4.00 ‰		
マンホール間距離	47.00 m		
管体延長	46.40 m		
推進延長	45.80 m		
地盤高	25.58	25.89	
管底高	24.616	24.428	21.489
土被り	0.76	1.25	

工事概略図



写真一 1 発進ヤード



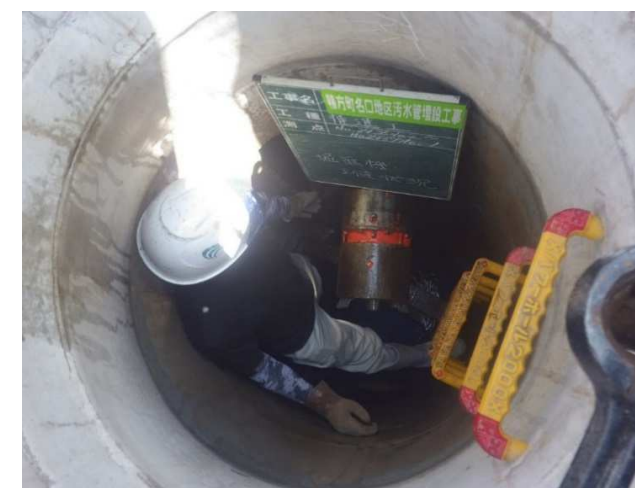
写真一 2 元押装置据付



写真一 3 掘進機吊降し



写真一 4 掘進機据付



写真一 5 掘進機マンホール到達



写真一 6 掘進機分割回収

アンクルモールV工法 施工事例（φ1,500mm立坑発進）②

施工場所： 京都府K市

呼び径： 200

立坑： 発進立坑 φ1,500mm 鋼製ケーシング

到達立坑 φ1,800mm 鋼製ケーシング

土被： 2.11～2.49m

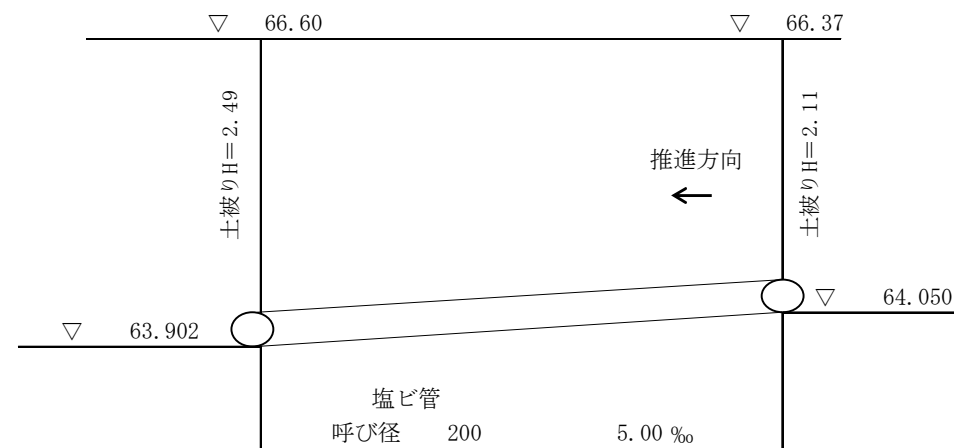
土質： 砂質シルト

推進延長： L=28.8m

道路幅員が狭く、φ1,500mm立坑しか構築することが出来ず、到達も2号マンホールということもあり、軟弱な砂質シルト層でも高い施工精度が求められるため、当工法にて施工

施工精度は、軟弱地盤ということもあり上下-3～7mm、左右-5～5mmと上下左右とも10mm程度の変位があったものの、最大推進力も40kN以下で施工完了

測点番号	既No. 24	No. 35-1
発到区分	到達立坑	両発進立坑
立坑種類	2号組立マンホール	鋼製ケーシング
立坑サイズ	φ1,200mm	φ1,500mm



路線番号		
土質	砂質シルト	
推進方向	←	
管種	塩ビ管	
管径	呼び径	200
勾配	5.00 ‰	
マンホール間距離	29.50 m	
管体延長	28.45 m	
推進延長	27.85 m	
地盤高	66.6	66.37
管底高	63.902	64.050
		64.344
土被り	2.49	2.11

工事概略図



写真一 1 発進ヤード



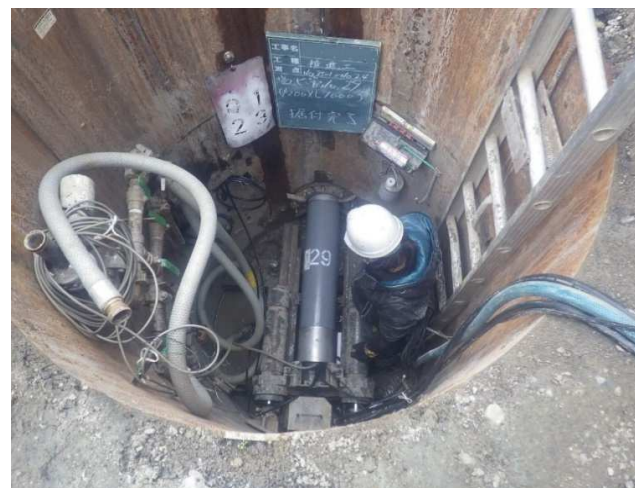
写真一 2 掘進機吊降し



写真一 3 掘進機据付



写真一 4 掘進機推進



写真一 5 塩ビ管推進



写真一 6 掘進機分割回収

アンクルモールV工法 施工事例（ $\phi 1,500\text{mm}$ 立坑発進）③

施工場所：三重県M市

呼び径：200

立坑：発進立坑 $\phi 1,500\text{mm}$ 鋼製ケーシング
到達立坑 $1,000 \times 1,500\text{mm}$ 軽量鋼矢板

土被：1.91～1.78m

土質：粘土、軟岩

N値：4～80程度

推進延長：L=38.4m

本工事の設計は開削方式でしたが、到達手前28.4mにN値80程度の軟岩が確認されました。道路幅員が狭く民家が隣接していることから、軟岩部分を開削にて施工した場合の振動等の影響が懸念され、推進工法にて施工

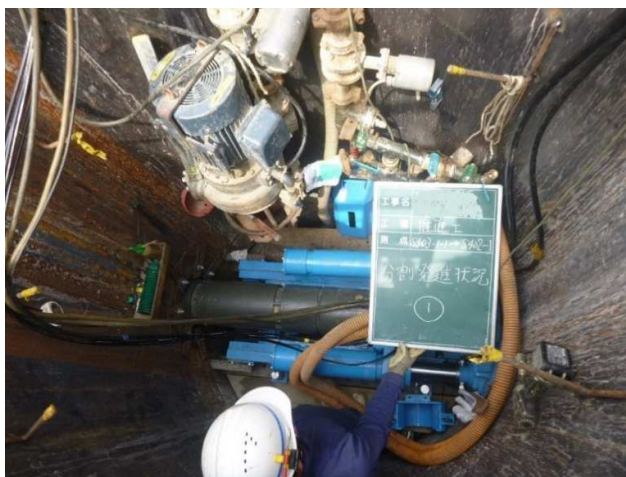
発進から10m付近までのN値4程度の粘土層と、それ以降の軟岩層との互層部分通過時の施工精度保持が懸念されたが、上下-1～1mm、左右-2～3mmと高精度で施工完了



写真一 発進ヤード



写真二 車上プラント



写真三 掘進機推進



写真四 塩ビ管吊降し据付